



発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL / FAX 024-567-5322Web <http://www.nposhalom.net>
E-mail info@nposhalom.net

発行責任者：大竹 純子

「共に生きる仲間たちのコンサート」開催へ

今年で十五回を迎える「共に生きる仲間たちのコンサート」が、十二月十八日A.O.Zを会場に開催されます。

本年度のコンサートは当初、デンマークの障がい者バンドを招聘し開催を準備していましたが、地震のためこの企画は中止となつてしまいました。

しかし、地震と原発事故後の災害支援活動の中で、全国からの多くの支援を頂き、さまざまな新たな活動が広がってきました。その一つに被災地支援への応援の花として届けられたひまわりの種がありました。この種によって、街のいたるところにひまわりの花が咲き誇りました。

私たちはこれらの全国の支援者の方々に感謝する意味を含め、今年度のコンサートを特別に「ひまわり感謝祭」として開催することといたしました。

十一月五日には、ローリーサーバー会を開催し、イベントの概要が事

ひまわり感謝祭
— 十二月十八日 A.O.Zで開催 —



務局から説明され、今後は地区単位での広報や準備活動が本格化していきます。会員のみならずには、十二月十八日の本イベントを今から予定に組み込んでいただき、ご協力をお願いいたします。

【イベント概要】

①第十五回 共に生きる仲間たちのコンサート
障がいを持つ仲間たちと市民が作るステージ

今回は災害支援で来られたエンターテイナー、疋田さんの友情出演、福島学院大学「OYAKO」クラブによる華麗な演舞など、様々なパフォーマンスにより充実したコンサートになるものと思えます。

②ひまわり写真・絵画展
ひまわりの写真・絵画を展示、同時に、優秀作品への表彰式を行います。

市長賞、教育長賞等が準備されています。会員の方の作品も二十日まで受け付けますので、まだ出品されていない方はまだなか夢工房までご持参ください。

③復興支援団体等紹介・授産製品等展示即売会
これまで、シャロームを通じて全国から支援の手を差し伸べてくださった団体を紹介させていただきます。

また、会場では、県内外の施設による授産製品の販売も行います。

④大地の詩「留岡幸助物語」映画上映会
山田火沙子監督の最新作であり、社会福祉の先駆者、留岡幸助の生涯を追った感動作を上映いたします。

山田監督は以前にも、「児童福祉の父」と呼ばれる留岡氏と共に「岡山四聖人」と称される石井十次の生涯を映画化しています。（中学校の教科書には、福祉教育に尽力した人物として二人が掲載されています。）

明治時代、社会への不条理を痛感し、商家の養子という身分から教師となった留岡は、過酷な刑罰を受ける囚人達、やがては孤児のために奮闘し、少年感化事業の先駆者として北海道家庭学校を開校します。

キャストには主演に村上弘明氏など、豪華な俳優陣が出演しています。

*詳細については、チラシ等をご覧ください。

原発事故から八ヶ月目を迎える。十一月という季節を想う前に三月十一日からの経過で今を考える習慣が付いてしまった。新聞を開くと原発関連の記事の載らない日はない。春、夏が過ぎ、日に日に震災後始めている冬が近づくと、飯沼住宅での冬は慣れない場所で大変だろうと思う。

汚染マップが作成されてホットスポットの調査も日に日に進み、放射能汚染の実態が明らかとなつてきている。

我々の日々の生活は、事故以前の日常と変わらないものに戻っているかに見える。地震による停電と断水で多くの市民が水を求めて給水車の列に並んでいるなか、爆発時の高濃度汚染に晒されていたことが明らかになった。現在、多くの専門家が避難区域になつても不思議ではないと言っている。はばからない土地の上で、手探りで除染に向かっている。そこには解決されない重苦しい不安だけが漂っている。

人の命を守り、未来に繋いでいくことが、いまを生きる私たちの役割であることを思う。八ヶ月の体験と記録から、これからの福島を真剣に考え発言していかねければならない時期にきている。十一月十一日には、「ふくしま会議」も開催された。福島の問題は世界人類の課題となっている。



大波農業体験 米収穫で一段落

収穫祭開催へ

十月二日、シャロームが大波でお借りしていた田んぼで、ついに収穫の稲刈りがおこなわれた。

この田んぼは、ひまわりの除染実験を行なっていた畑と同じ敷地の一角にあるもので、もともと長年使われずに雑草がはびこるままになっていた九十坪ほどの土地だ。UDセンターでは、地域の方々の協力のもと、五月初頭からここを除草し、耕し、代かきを行って、同月二三日に種がいのある仲間たち、地域の方々と共にもち米の田植えをおこなった。田植え後、水を入れても土に染み込んで溜らず、夏の間は暗くなるまで水が張るのを見守ったりと管理にはかなり手



を焼いた。

そんな苦労もあり、この日の稲刈りはスタッフの感慨もひとしおだった。田植えを手伝ってくれた障がい者の方々、地域の方々がたを再び交え、全て手作業で行った。

何年間も田植えが行われていなかったという稲も草丈が伸びすぎという状態だった。これについては、水の管理などによって稲刈りの前に育成を抑えようという試みもあったが、結局のところあまり効果がみられなかった。そのため、育ちすぎた稲が倒伏しないよう、田を横切って杭をうち、これに紐を張って倒れないようにするなどの工夫が取られていた。

当日は端のほうには幾つか倒れてしまっている株もあったが、青々と茂った稲には概ね穂もたわわに実り、協力していただいた農家の方からも「これは沢山お米が取れるな」という言葉を頂いた。スタッフ、仲間達、保護者、近隣住民の方々、全員が仲良く肩を並べて互い違いに列を作り、鎌を使っ

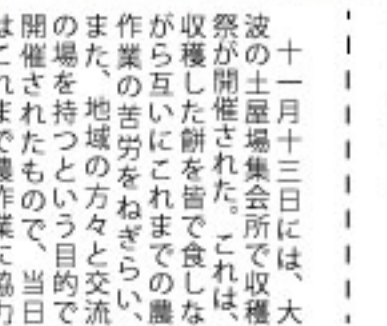
て一株ずつ稲穂を収穫していった。水はすでに抜いてあったが、一部の区間の地表はまだぬかるんでいて滑りやすかったり、でこぼこして歩いて歩きづらかった。手作業での稲刈りが未経験の参加者が怪我をしないよう、農家の方々も真剣に取り



組んでいたもので、収穫は次第に良いペースで進んでいき、田はみるみるうちにさっぱりしていった。刈り取った稲は約六束ずつ藁で結んでひとまとめにされ、田の一面に山積みになっていった。同時進行で数名が田の片側に等間隔で杭を立てていき、刈り取った稲をかけた稲木を作った。これは近所の農家の方々が中心となっておこない、我々スタッフも指導を受けながら慣れない手で稲を積み上げていった。稲の束

は長さも株の太さもバラバラで、穂が地面につかないようにしながらパラスを取るのにはなかなか難しかったが、この工程も午前中に全て完成し、最終的に二〇本近くの稲木が完成した。その後すぐ近くにある集会所で昼ごはんをこちそうになり、皆和気あいあいと歓談しながら美味しい豚汁をこちそうになった。

十一月十三日には、大波の土屋場集会所で収穫祭が開催された。これは、収穫した餅を皆で食しながら互いにこれまでの農作業の苦労をねぎらい、また、地域の方々との交流の場を持つという目的で開催されたもので、当日はこれまで農作業に協力してくれた障がいのある仲間たち、農家の方々、子供たちや、



シャロームの代表、副代表、ひまわりを使った除染実験に協力していただいた京都大学のみなさんや、JA新ふくしまの常務理事様、東部支店店長様などが駆けつけ、大変賑わいのある催しとなった。当日皆さんでいただきたい餅は、現場で炊き上げ、餅つきをおこなった出来立てのものである。調理は地域の婦人部の方々にしていただいたが、私達UDセンターのスタッフや、障がいのある仲間たちも餅つきに参加する機会を得た。餅つきといえ

ば白に入った餅に杵を打ち付けると光景が真っ先に思い浮かぶが、実際にはそれ以前の工程である「半殺し」と呼ばれる手順のほうが必要であることを知った。これはまだご飯粒にわかれていない状態の餅に杵をあてがいながら、これをググググと体重を掛けつつ捻るように潰していくというもので、中腰で長時間力を加え続けるのはなかなか骨が折れる。これが終わってからやっと実際の「餅つき」に入るわけだが、今回は人数も多かったため、皆で棒を持って一斉につくというやり方をとった。皆息を合わせ、掛け声を掛けながら一斉に棒を振り下ろす様はまさしくお祭りという賑やかさで、参

加した障がいのある仲間もとても嬉しそうに餅をついていた。餅はきなこもち、納豆餅、雑煮などに調理され、集会所の中で参加者の皆さんに振舞われた。いざ料理となつてくると、目の前には餅が、自分たちが半年前に植え、水を管理し、刈り取り、説



殺し、ついた末にできたものであるというのとはなく不思議な感じがした。餅は粘り気が少なく、歯ごたえがあつても美味しかった。最後には参加者の方全員にもち米三口のお土産が手渡され、お開きとなった。今回苦労して作ったお米が協力してくれた皆さんや地域の人にも胸を張って配れるのはとても嬉しかった。これからもうした素晴らしい方々の協力のもと、大波での活動を続けていけたら良いと思う。(文 赤間)

◆全国支援者様

全国からのご支援感謝いたします！

○ジュノーの会 甲斐等様と会の皆さま。(広島県) 「梅ドミ」(梅干、ドクダミ、味噌)を中心に、入浴剤や漢方貼剤もお送りいただいています。十月十四日は個別相談会を開いてくださいました。現在も続いているチエルノブイリ支援の経験から、漢方貼剤のご指導、十二名の方への個別相談をしてくださいました。感謝の言葉がたくさん届いています。

○ごとう和さま(静岡県) ごとう和さまはマンガ家として活躍されています。ジュノーの会の甲斐さんの活動を知り、甲斐さんが講演した第九十二回の地元学のため来福講演の中で、チエルノブイリでの効果的な静養法として、放射線量の心配のない場所での保養が行われていると聞き、早速ご実家である山形県河北町にお話をつないで下さいました。

これにより、十月十五日、十六日、飯館村と福島の子どもたち三十名の一泊二日の保養プログラムが実現しました。子どもたちの様子を感じ、ジュノーの会甲斐さんも同行しました。

◆感謝のご紹介

○帰農志塾 戸松正様と仲間のごさま(栃木県)

○魚住豊園

魚住道郎さま(茨城県) 鈴木豊園

鈴木良一さま(茨城県) 毎週畑からの直送野菜をいただいています。畑のニュース・土や野菜の情報とともに微生物による研究の成果など、長年の体験や研究からたくさん情報も届けて頂いています。

○はこべ会 市来さま えごしさま スタッフの皆さま(熊本県)

○日本茶インストラクター協会 代表 市川辰太さま(熊本県) 会員の方々の手作りの梅干とたくさんのお茶をいただきました。梅干は「梅ドミサロン」のお茶会に使わせていただきます。

○青木道子さま(茨城県) 海老沢とも子様のご紹介。茨城県の新米を送っていただきました。

○溝口道子さま(大阪府) 食器、寝具などを二回にわたりお送りいただきました。

双葉町の仮設住宅の方々に届けられました。

○前山保育園 園長 余田淳子さま(兵庫県) 六月に夏休み子どもキャンプ等の計画のため来福。その後も丹波の黒豆を送って頂きました。

まちななが夢工房

八周年

十月二十七日「障がい者コミュニティサロン」八周年記念イベントが開催されました。例年通りパン半額セール・大抽選会を開催し、今年は震災後にも関わらず昨年を上回る来店数となり、約三千二百ヶものパンが完売する大盛況の一日となりました。

十月二十七日「障がい者コミュニティサロン」八周年記念イベントが開催されました。例年通りパン半額セール・大抽選会を開催し、今年は震災後にも関わらず昨年を上回る来店数となり、約三千二百ヶものパンが完売する大盛況の一日となりました。



休むまもなくパンの制作に励む夢工房スタッフ

当日はまちななが夢工房に様々な形で関わって来られたボランティアの皆さん、そして全スタッフのパンの製造・販売に参加し、工房ではパン作りのベテラン達が前日から夜を徹してパンを焼き上げるなど、普段夢工房で働く仲間たち全員が一致団結してこのイベントを盛り上げようと一生懸命各々の役割に当たりました。

店頭抽選会ブースではシャロームUDセンター



沢山のお客様で賑わう店内

又、ボランティアアさんには美味しいお料理の差し入れを頂き、皆で互いに疲れをねぎらいながら温かいお食事を頂いていると、参加している皆さん、包みこむような暖かさを感じることができました。

夢工房はこの日、いつもより早い午前九時から開店しましたが、もう開店前からお店の前には十名以上の方が列を作っていました。

開店後も大変多くのお客様にご来店いただき、一時はパンの調理が追いつかなくなる場面もありました。本来は夜七時閉店の予定でしたが、最終的に好評のため若干延長しての営業となりました。

抽選会ブースでは、意外にも一等のニンテンドー3DSと二等の折りたたみ自転車午前中のうちに当選となってしまったため、急速もう一台一等の賞品を購入しました。こちらは閉店間際までなかなか当選するお客様が現れず、くじが少なくなってきた終盤は、抽選を担当するスタッフもハラハラしながら見守るような大変エキサイティングな抽選会となりました。



呼び込みを行う着ぐるみ部隊

三月十一日の東日本大震災以降、お店の来客数減少もあり、これからについて漠然とした不安が常につきまとい、今回こうして皆さんの市民の皆様を足運んでいただき、皆様の笑顔とありがたの言葉をかけていただいたことで、そうした不安が吹き飛ばされた。改めて、八周年営業してきた中で築いてきた絆を感じることができ、スタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。

まちななが夢工房は、これからもみんなで支え合いながら、福島市のまちなかのオアシスとして、ひたむきに、実直に、誠実に歩んでいきたいと考えています。これからもよろしくお願ひ致します。(文 斎藤)

絆センターでは、被災地からの避難児童を対象に週末保養プログラムを開催しています。

現在は主に飯館村の児童を中心に、隣県である山形県にお世話になっています。

子供たちは廃校になった木造校舎の広いグラウンドで力いっぱい走りまわり、鬼ごっこ、野球、サッカー、戦いごっこと力限りの遊び、食事の準備や、木工細工にも大喜びでした。感想を聞くと、「外で遊べて楽しかった」と3・11以前では当たり前前の事が子供たちには貴重な体験になっているという事を改めて考えさせられました。(文・佐々木)

絆センター

だより

活動のご報告

- 10月12日 介護福祉専門学校「梅のみサロン」 2名
- 10月14日 健康相談会「梅のみサロン」
ジュノーの会甲斐氏来福 12名
- 10月15・16日 飛行協会「りんご祭」出店 延9名
- 10月15・16日 山形県河北町への1泊子ども保養事業
- 10月16日 あづまケアフォーラム出店 4名
- 10月17日 飯館村仮設住宅「梅のみサロン」 2名
- 10月22日 第94回地元学を考える
「ここは戦場なるぞ」
講師 村野井幸雄さん 40名
- 10月24日 ふくしま会議
- 10月26日 飯館村仮設住宅「梅のみサロン」 2名
- 10月27日 まちなか夢工房8周年記念イベント
- 10月28日 福祉審議委員会 (代表)
- 10月30日 杉妻学習センターまつり参加 3名
- 10月30日 山形県川西町保養プログラム
- 10月31～ 福島市立養護学校実習 1名
- 11月18日
- 11月7～18日 いわき養護学校実習

活動予定

- 11月11日 ふくしま会議 全体会
- 11月12日 ふくしま会議 分科会
- 11月13日 ふくしま会議 地域部会
収穫感謝祭(大波水田)
- 11月14日 飯館村仮設「梅・ド・み」サロン
- 11月14～18日 福島第一中学校実習(2名)
- 11月21日 生協棚卸
- 11月22日 飯館村仮設「梅・ド・み」サロン
福島第一小学校インターンシップ
- 11月23日 大玉ボラセンまつり参加
- 11月24日 ひまわりフォト・絵画審査会
- 11月26日 第95回地元学「聖書予言」
三神たける氏
- 11月27日 楽譜総会
- 11月29日 福島第一小学校インターンシップ
- 12月3日 「ひまわり感謝祭」ボランティア説明会
- 12月10日 第96回地元学 小林喜成氏



第95回 地元学

「聖書予言」

講師：三神たける さん
(学研編集長)

11月26日(土)

13:30～15:30

まちなか夢工房 2階

オアシス広場にて開催

参加費 500円

(飲み物付き)

第九十五回地元学

「ここは戦場なるぞ」感想

十月二十二日の土曜日には、思わず涙が出そうに開催された第九十四回「地元学を考える」では、講師に会津美里町在住の詩人である村野井幸雄さんをお招きして講演を頂きました。会津藩が戊辰戦争後に辛酸を舐めたことや、大正時代まで賊軍として差別を受けた少年柴五郎が後に陸軍大將までのぼりつめたエピソードを語られました。「白虎隊の後、会津藩がかに苦労したかを語りかけた」と講師の村野井さんが言われた通り、その様子はとても悲惨でした。特に若松城に経賊軍が攻めてきた時、城の女性や子供たちが自刃して果てたというエピソード

十月二十二日の土曜日には、思わず涙が出そうに開催された第九十四回「地元学を考える」では、講師に会津美里町在住の詩人である村野井幸雄さんをお招きして講演を頂きました。会津藩が戊辰戦争後に辛酸を舐めたことや、大正時代まで賊軍として差別を受けた少年柴五郎が後に陸軍大將までのぼりつめたエピソードを語られました。「白虎隊の後、会津藩がかに苦労したかを語りかけた」と講師の村野井さんが言われた通り、その様子はとても悲惨でした。特に若松城に経賊軍が攻めてきた時、城の女性や子供たちが自刃して果てたというエピソード

(文 H.T.)

(前号から続く)

たとえきっかけが純然たる善意であっても、それが通じないというもどかしさは、しばしば相手に対する憎しみにつながる。福島市岡部で障害者更生施設「もちずりワーク」の所長を務める八幡先生も、監視の目が行き届いていない障害者福祉の現場はしばしば虐待の温床となりうるという話をされたことがある。

先生が提言する「障がい者と共に生きる」という理想像は、彼らに何かをさせるということでは断じてない。また、腫れものを触るように障がい者を特別扱いすることでもない。二者が互いを尊重しつつ、時には喧嘩できるくらいの信頼関係を築くことができるのが理想だ。これは、私がもちずりワークに研修に行っていた時に指導員と利用者の方々の作業所での姿を見ていて実感したことでもある。時には温かく、時には厳しく。両者の関係はさながら家族のようであった。

これはシャロームが理想とする地域のユニバーサルデザイン、つまり、あらゆる人たちが等しく参画できる社会の実現を目指すにあたって心得とすべきことだと思う。一部の理想をもった人間が考えを押し付けるだけではユニバーサルデザインの実現などありえない。例えそれが善意であっても、為すがまま、為されるがままではなく、行動によるコミュニケーションが必要だ。(文 R.A.)

